

議員提出議案第3号

新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応の検証体制の充実、若年層に接種する判断材料を提供する国内の多様な第一線の研究者による審議会の設置及び分かりやすい最新の情報公開を国に求める意見書の提出について

上記の議案を、別紙のとおり二宮町議会会議規則第13条第2項の規定に基づき提出する。

令和3年9月3日

二宮町議会議長 善 波 宣 雄 殿

提出者	二宮町議会議員	一 石 洋 子
賛成者	同	小 笠 原 陶 子
同	同	渡 辺 訓 任
同	同	根 岸 ゆ き 子

新型コロナウイルスワクチン接種後の副反応の検証体制の充実、若年層に接種する判断材料を提供する国内の多様な第一線の研究者による審議会を設置及び分かりやすい最新の情報公開を国に求める意見書

新型コロナウイルスワクチンは、人間に初めて使用されるにも関わらず異例の短期間で緊急承認され、現在臨床試験中であることが公表されている。現在までに新たな研究成果、実証が様々な研究機関で発表されてきているところだ。厚生労働省によると 2021 年 2 月に国内の接種が始まってから 8 月 24 日までに 1 億 2,222 万 3,024 回の接種実績となる。厚生労働省に報告された接種後の死者数は 1,000 人を超え、副作用件数は 2 万件に上る。薬害の専門家は実際の件数は報告数の 10 倍はあると指摘するところだ。インフルエンザワクチンが約 5,000 万回の接種で接種後の死者数が例年 3 人から 10 人程度であるのに比較すると看過できない数値である。

現行の厚生労働省厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会及び薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会は、この未曾有の死亡者のデータのワクチンとの因果関係について評価不能としている。今後の防疫のためにも検証体制を充実し、分かりやすい情報公開と被害者に寄り添った救済支援を急ぎたい。また人種、風土差を考慮すべき観点からも新型コロナウイルスワクチンに特化した日本独自の検証体制をもつべきである。

歴史上、国の対応が遅れたことで薬害被害者が増え続けた教訓からも、未来ある子ども・若者が臨床試験中のワクチンを打つことによって長きにわたり副反応に苦しむ事態を最小限に抑えてコロナ禍を乗り切る方策を尽くさなくてはならない。

国は、未来ある若年層への接種のメリット、デメリットについて国民が冷静に科学者の対立する議論を俯瞰して、任意接種の判断が出来るような情報提供をすべきである。第一線の科学者の智賢を広く集め、未来に禍根を残さない最善の防疫体制を国民と築くために以下の事項を要望する。

記

新型コロナウイルスワクチンについて接種後の副反応の検証及び迅速な救済体制を充実させ、特に若年層への接種について第一線の多様な科学者による最新の検証を行う審議会を設置し、国民が判断材料として俯瞰できるようなわかりやすい情報公開を行うこと。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出する。

令和 3 年 9 月 3 日

提出先

衆議院議長	大島 理森
参議院議長	山東 昭子
内閣総理大臣	菅 義偉
財務大臣	麻生 太郎
厚生労働大臣	田村 憲久

神奈川県中郡二宮町議会議長 善波 宣雄